



～交差感染について～

発行日 2019 年 1 月
発行 ふくの若葉病院
感染防止対策委員会

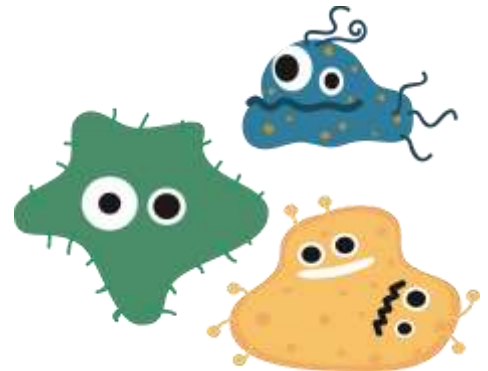


昨年 9 月に「多剤耐性菌による交差感染の防止」について院内研修を行いました。研修では、感染を広めないために職員一人ひとりが媒体とならないように気をつけること、標準予防策を徹底することが重要であると学びました。

今回、引き続き「交差感染について」を取り上げ、日常業務での感染対策について考えてみましょう。

交差感染とは？

患者さんから患者さんへ、患者さんから職員へ、直接または器物を介して間接的に伝播することです。



多剤耐性菌の感染経路は、通常、接触感染です。皆さんは、普段から手洗いやゴーゴヨによる擦式消毒、手袋の使用による手指衛生に注意していると思いますが、媒体の可能性となりえる行動について考えてみましょう。

その 1. カーディガンの着用時どのように気を付けていますか？

今の季節、防寒対策としてカーディガンを使用していますが、ユニフォームのようにこまめに洗濯はできていないと思います。カーディガンを着用して、患者さんの吸痰やオムツ交換などを行う際に、様々なものが付着し、次の患者さんへ伝播する危険があります。



対策：特に ESBL や緑膿菌など多剤耐性菌保有している患者さんには、交差感染を考えて対応しましょう。

その 2. インスピロンのジャバラホースを病室の洗面所で洗っていませんか？

ジャバラホースには痰が付着しています。室内の洗面所は、他の患者さんが顔を洗ったり、歯磨きをしたりしますので、交差感染の危険があります。

対策：インスピロンのジャバラホースなど痰が付着しているものは、汚物処理室で洗いましょう。



その3. 陰洗ボトルをベッドや床頭台に置き忘れていませんか？

清潔な手で陰洗ボトルを持っていますが、洗浄時にお湯が飛び散り、陰洗ボトルに付着する可能性があります。

対策:陰洗ボトルは感染源となることもありますので、手洗いと使用後は病室に置き忘れのないように片付けましょう。



その4. 手洗いの後に、マスクを外していませんか？

マスクの外側には色々なものが付着しています。手洗い後にマスクに触れると交差感染の危険があります。

対策:手洗い前にマスクを外しましょう。マスクを外す場合は、外側に触れないように注意しましょう。



その5. 患者さんが使用したティシュペーパーのゴミを素手で捨てていませんか？

咳や鼻水などをティシュペーパーにおさめている場合があります。素手で触ることは交差感染の危険があります。

対策:汗を除く分泌物・排泄物・すべての体液は感染性があるものと認識し、手袋の使用や手洗いを厳重にしましょう。



標準予防策の徹底！

1. 適切な手洗い…手指衛生、5つのタイミング
2. 個人防護の使用…手袋、マスク、エプロンなどの使用、エプロン着用したままナースステーションに入らない
3. 呼吸器衛生、咳エチケット…マスクの着用や離れた場所での食事、カーテン隔離
4. 患者配置(個室管理)…インフルエンザやノロウイルス、疥癬など
5. 環境の維持管理…環境整備、清掃、ゴミ箱のふたも不潔扱いで対応
6. 患者さんに使用した器具の取り扱い…注射針や血液付着の器具、吸痰瓶や廃棄物の取り扱い
7. リネンの取り扱い…感染リネン、汚染リネンの取り扱い

日々、日常業務の中には交差感染する危険が多くあります。

職員一人ひとりのこころがけで、院内感染の防止を図ることができます。

皆さん、交差感染のリスクを考え行動しましょう。

